

日韓交流の架け橋として6年間

イチョンス
～ 李鍾洙さん帰国～

ハンゲル講座や日韓交流業務などを務めてきた対馬市国際交流員、李鍾洙さんが、6月12日のシーフラワーで韓国に帰国しました。

李さんは、1999年8月1日に、旧美津島町の国際交流員として対馬を訪れ、約6年間、対馬と韓国との交流の架け橋として活躍してきました。しかし、韓国に住む高齢のご両親の健康問題、自分の将来のことを考え帰国を決意しました。

対馬は第二の故郷と話す李さん。対馬で2人の子どもの恵まれ、名前は対馬にちなんで長女は海仁ちゃん（5歳、きれいな海）、長男は東河ちゃん（3歳、韓国から見た東の大きな河）名付けました。

韓国に帰国後は忠清南道庁（大田広域市）国際通商課勤務となり、今後も日本と韓国との架け橋になりたいと誓っています。



また帰って来ますと手を振る李さん



離任式（10日）でお世話になりましたと握手



2年連続囲碁の全国大会へ

ともゆき
～ 俵友祐希君(対馬高1年)～



日本一を目指したいと話す俵君

6月6日、全国高校囲碁選手権の県予選（男子個人戦）で優勝した対馬高校1年の俵友祐希君が優勝報告のため市役所を訪れました。

俵君は7月26日に東京で開かれる全国高校選手権と8月に青森で開かれる全国大会に県代表として出場します。

俵君は、昨年中学3年生で出場した県大会でも優勝して、全国大会に出場しました。（平成16年6月号に掲載）初挑戦の全国大会では4回戦まで勝ち進み、ベスト16の結果を残しています。

松村市長との対談で俵君は「優勝を目指してがんばりたい」と語り、市長も「対馬の希望の星として日本一に」と激励しました。

県大会優勝、全国大会へ

～ 巖原マリナース～



健闘を誓ったメンバー

6月11、12日、西海市で行われた高松宮賜杯第49回全日本軟式野球大会（第1部）長崎県支部予選会に対馬市代表として出場し、見事に優勝を飾った巖原マリナース（神宮篤監督）のメンバーが、16日に松村市長に優勝報告をしました。

巖原マリナースは、5月15日に市民球団「対馬まさかりドリームス」と親善試合をしたチームです。9月16日から兵庫県で開催される全国大会（出場32チーム）に出場します。松村市長からは「元プロ野球選手との対戦という経験を活かして全国大会でも活躍を期待します」と激励の言葉が送られました。